2025.1.11 sat
at NAKANO ZERO

Tokyo Kosei Wind Orchestra

Subscription Concert
2024-2025

#167

マスランカ・チクルスVol.2

Takeshi Ooi
Conductor

主催：一般社団法人東京佼成ウインドオーケストラ

共催：なかのZERO指定管理者

助成：文化庁
文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))
独立行政法人日本芸術文化振興会

ARTS COUNCIL TOKYO
公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京
[東京芸術文化創造発信助成]

後援：一般社団法人全日本吹奏楽連盟
公益社団法人日本吹奏楽指導者協会
公益財団法人日本音楽教育文化振興会
一般社団法人日本管打・吹奏楽学会
日本コロムビア株式会社
株式会社テレビマンユニオン

https://www.tkwo.jp/

PROGRAM | プログラム

ブーレスク風ロンド(1972年委嘱作品)／伊福部 昭　［約11分］

Rondo in Burlesque for concert Band／Akira Ifukube

休憩 Intermission　［20分］

交響曲第9番／D.マスランカ　［約75分］

Symphony No.9／David Maslanka

第 1 楽章　まもなくかなたの
第 2 楽章　全ては汝の元に
第 3 楽章　「我は神に感謝する」による幻想曲
第 4 楽章　「おお、血と涙にまみれた御頭よ」による幻想曲

Ⅰ. Shall We Gather at the River
Ⅱ. Now All Lies Under Thee
Ⅲ. Fantasia on I Thank You God…
Ⅳ. Fantasia on O Sacred Head Now Wounded

注 意

- 本コンサートは、会場の観客の皆様を撮影する場合があること、および収録された映像がインターネット、DVDなど各種媒体で公開・販売されることを予めご了承ください。
- ホール内での飲食、許可のないビデオ・写真撮影、および携帯電話・スマートフォンでの撮影はご遠慮ください。
- 携帯電話・時計のアラームなど音の出る電子機器は電源をお切りください。
- 演奏中のプログラムをめくる音、お客様同士での会話など音を発する行為は他のお客様のご迷惑となることがありますのでご配慮ください。
- 演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございますので、ご配慮くださいますようお願いいたします。

本公演に関する
アンケートへ
ご協力ください。

PROFILE | 指揮者プロフィール

2024年4月、東京佼成ウインドオーケストラ常任指揮者に就任。
17歳より指揮法を松尾葉子氏に師事。東京藝術大学指揮科を卒業後、同大学院指揮専攻修了。若杉弘、岩城宏之の各氏に指導を受ける。1996年安宅賞受賞。スイス、イタリア各地の夏期講習会においてレヴァイン、マズア、ジェルメッティ、カラプチェフスキーの各氏に指導を受ける。
2007～2009年チェコ・フィルハーモニー管弦楽団で研修。2008年アントニオ・ペドロッティ国際指揮者コンクールで第2位入賞。在学中より東京二期会、新国立劇場などのオペラ公演で副指揮者をつとめ、2002年「ペレアスとメリザンド」(ドビュッシー)を指揮してデビュー。その後はオペラのほかバレエ、ミュージカル、日本舞踊との共演など多くの舞台公演を指揮。
仙台フィルハーモニー管弦楽団副指揮者(2000～2001)、ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉(現・千葉交響楽団)常任指揮者(2009～2016)、山形交響楽団指揮者(2009～2013)、同正指揮者(2013～2017)、東京佼成ウインドオーケストラ正指揮者(2014～2024)を歴任。このほか全国の主要オーケストラを指揮している。
レパートリーは極めて広く、オーソドックスな管弦楽／吹奏楽の作品を中心として、現代音楽の初演、ゲーム音楽、映画音楽、ポップスなどありとあらゆる音楽を手がける。トーク付きのコンサート、また子供のためのコンサートなどを通じて、より多くの方々に音楽に親しんでいただくことに情熱を注いでいる。
東京藝術大学音楽学部器楽科非常勤講師(吹奏楽)、尚美ミュージックカレッジ専門学校客員教授。

PROFILE | ゲストプロフィール

ピアノ

鈴木 慎崇

Yoshitaka Suzuki,
Piano

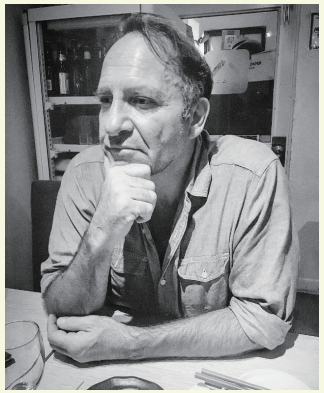
札幌市出身。東京藝術大学音楽学部卒業。全日本学生音楽コンクール、日本音楽コンクールにて、それぞれ第1位。ソリストとしてさまざまなオーケストラと共演。室内楽の分野においてリサイタル、FM、CD、配信などで数多くの演奏家と共演。国内外の音楽祭、コンクールなどで公式伴奏者をつとめ、高い評価と信頼を得ている。オーケストラの演奏会にて鍵盤楽器奏者として度々出演。アンサンブルピアニストとしての活動は多岐に渡り、東京混声合唱団とも数多く共演している。現在洗足学園音楽大学非常勤講師。

語り

チャールズ・グラバー

Charles Glover,
Narration

アメリカ・ニューメキシコ州出身。ニューメキシコ州大学美術学科卒業後、ニューヨーク大学大学院俳優科に進む。その後、ニューヨークを中心に俳優としてテレビ、映画、舞台での活躍の他、平和部隊のボランティア活動、ミクロネシアでの政府の仕事に関わるなど、文化交流にも貢献。現在は、NHKテレビとラジオ番組でアナウンサーのレギュラーをつとめる傍ら、声優、CMナレーション、大学のマスメディア特別講師、写真家など多方面で活躍。映画やテレビでは俳優として確固たる評価を獲得。英語、日本語、スペイン語、ミクロネシア語（チューク）も堪能。



PROGRAM NOTES

曲目解説－中橋愛生（TKWO楽芸員）

※本文中の「東京佼成ウインドオーケストラ」は「TKWO」と略しました。

伊福部 昭作曲

ブーレスク風ロンド

2024年、新体制となった東京佼成ウインドオーケストラ（以後、TKWO）は今後の方針の一つとして「つなぐ」、即ち過去の委嘱作品の再演を挙げた。常任指揮者となった大井いわく「過去の財産から新しい生命と未来への道を発見する行為」。今回演奏されるのは、TKWOの委嘱作品としては2作目に当たる、1972年度委嘱作品の本作である。1972年11月21日の第15回定期演奏会で手塚幸紀の指揮で初演されている。委嘱第1作である陶野重雄『求心』が初演されたのが同年4月26日なので、ほぼ同時に委嘱されたと言ってもいいだろう。

伊福部昭は1914年に北海道で生まれた。道内で育ち、アイヌ文化にも触れつつヴァイオリンや作曲を独学、北海道帝国大学農学部林学科に在学中に管弦楽作品『日本狂詩曲』（1935）でチェレプニン賞作曲コンクールで第一位となり作曲家としてデビューした。2006年に亡くなるまで『シンフォニア・タプカーラ』（1954）や『リトミカ・オスティナート』（1961）など、多数の優れた作品を発表、戦後間も無い頃からの日本を代表する作曲家の一人である。強靭で訴求性の高いリズム、アイヌの影響も見られる独自の音遣い、品格の感じられる曲調で、現在でも多くの人の信奉を集めている。教育者としても優れ、1946年から53年まで東京音楽学校（現：東京藝術大学）講師、1974年から東京音楽大学教授、76年からは同学長を務めており、その門弟には芥川也寸志、黛敏郎、矢代秋雄、池野成、和田薫などがいる。

さて、一般的には伊福部は怪獣映画『ゴジラ』シリーズの音楽を担当したことで知られているだろう。1954年の第1作以降、1995年の『ゴジラvsデストロイア』まで、シリーズの多くの音楽を手がけた。実のところ、『ビルマの竪琴』（1956）など他の作品も数多く担当しているのだが、長期シリーズであること、何よりもそのインパクトから、現在に至るまで愛され、時には映画以外のシーンで使われることも多くなっている。

その『ゴジラ』シリーズにおいて自衛隊が登場するシーンで使われるマーチがある。「自衛隊マーチ」「宇宙大戦争マーチ」「怪獣大戦争マーチ」などいくつかの呼び方がある曲だ。映画では管弦楽によって演奏されるものだが、この曲は伊福部が戦時中の1943年に旧帝国海軍の依頼によって作られた吹奏楽曲『古典風軍楽《吉志舞》』に登場する主題の一つを転用した曲。伊福部は戦時中に軍部に頼まれて作った作品は戦後に人前に出すつもりはない、という態度を長らく取っており、『吉志

舞』もそのつもりであった（2001年に蘇演された）。軍楽隊のために作ったものを、イメージの近い自衛隊のシーンに転用する、というのは不思議な話ではない。元々、『吉志舞』においても軍隊色を避けるために長調からすぐに短調に転ずるという工夫がされていたが、映画音楽ではさらに旋律をなるべく弦楽器に担当させるなど、その姿勢は色濃かった。

さて、軍楽隊を連想させる吹奏楽のために作品を提供することを避けていた伊福部が、1972年にTKWOの委嘱を受けた理由はなんだったのか。残念ながらそれに関する資料は見つからなかった。『吉志舞』から30年。新たな楽想を考案するのではなく、あえてその拡大版ともいえる楽想とした伊福部の思いは如何なるものだったのだろうか。結果、『吉志舞』と、すなわち「自衛隊マーチ」と一部の主題を共有する吹奏楽作品『ブーレスク風ロンド』が1972年10月28日に完成した。

曲は「ロンド」とされている通り、「ABACABA」のように複数の楽案が交互に繰り返し現れる、という楽曲形式を採っている。しかし、いずれの主題も全く同じに再現されることはなく、特に調性は頻繁に変更され、楽器法も毎回異なっているため、何気なく聴いた印象よりもかなり高度な内容である。「ブーレスク」は「諧謔風」という意味だが、これについて伊福部自身は「中に自衛隊マーチの主題も現れるので、別な意味でのブーレスクともなっている」と語っている。

この曲は、1972年に初演された後、1973年10月31日に改定稿が作られているが、それが何のために作られたのか、実際に演奏されたのかは定かではない。その際に、和太鼓を追加されたほか、装飾音が加えられる、一部の小節数が増えている。一般にはこの和太鼓の追加は東京音楽大学がアメリカ演奏旅行を行うのに合わせて1977年に作成した、とされているが、実際の演奏旅行（1978年3月から4月にかけて）の記録には載っていない。1977年12月の東京文化会館での定期演奏会で改訂版は初演されたとされる。なお、1983年に伊福部自身が管弦楽用にも編曲している。今回は、TKWOに保管されていた初演時の楽譜を使用しての演奏である。

デイヴィッド・マスランカ作曲

交響曲第9番

2024年度の新体制と同時に発表された〈マスランカ・チクルス〉。マスランカが遺した吹奏楽のための交響曲の全曲演奏を5年かけて成し遂げるチクルスだ。第一弾は大井の常任指揮者就任記念演奏会における『交響曲第2番』（1986）であったが、今回はそれに続く第二弾となる。マスランカが自身で完成させ番号を与えた交響曲は全部で9曲であり、このうち『第1番』（1971）と『第6番』（2004）が管弦楽作品で、他が全て吹奏楽のために書かれている。すなわち、第一弾で最初、第二弾で最後の作品を採り上げることになる。

第一弾の際に記したものの一部再掲となってしまうが、改めてマスランカの紹介をしておこう。マスランカは1943年生まれのアメリカの作曲家。オバーリン音楽院からザルツブルグのモーツァルテウム大学への短期留学を経て、ミシガン州立大学にて修士号および博士号を取得した。様々な大学で教え、1990年以降はフリーランスの作曲家として活動、2017年に結腸癌のため死去するまでに管弦楽や合唱、そして吹奏楽のためにたくさんの作品を残している。

その作曲スタイルは、自らの無意識「真の声」より生まれてくるもので、その衝動に突き動かされ、それに従うことで創られる、というようなもの。結果として、マスランカの創作はあらかじめ考えて構築していったもの、とは少し異なる。また、マスランカは28歳の頃に「ハ長調の和音が自分のものである」ことを「発見」した。マスランカはその後、精神のトラブルを経験する。その心理療法から瞑想を行うようになったり、哲学書などを読むことによって、作曲スタイルを確かなものする。代表作『子供の夢の庭』（1981）は、その一つの証といえよう。また、マスランカの作品にはバッハの引用や、古い民謡もしばしば登場する。それらは多くの人々が何世代にもわたって歌われ続けたもので、「深く正しい」感覚に根ざした、人間の経験の深みと豊かさを体現したものであるからなのだという。

さて、この『交響曲第9番』は、47の団体および個人のコンソーシアム（共同委嘱）によって作られたもの。委嘱に参加した多くはイーストマン音楽学校など大学であったが、中には当時TKWOのテナー・サクソフォーン奏者を務めていた仲田守の名前もある。まず第1楽章が2011年8月7日に完成し、全曲は9月30日に完成、同年11月11日にコンソーシアムのオーガナイザーであったステファン・スティール指揮のイリノイ州立大学ウインド・アンサンブルによって初演された。マスランカ自身が完成させた最後の交響曲ではあるが、全部で57曲ある吹奏楽作品のうち『第9番』の後にも15曲が発表されているため、最晩年の作品と見るべきではないだろう。マスランカが『交響曲』の『第9番』を書くにあたって最初に直面した難しさは、まさに『交響曲第9番』であること自体だった。多くの作曲家にとって、このことは重要な意味を持ち、過去の大作曲家の偉業が重くのしかかる。マスランカは「まず、他の作曲家の交響曲第9番についての知識から全て離れ、自ら期待を放棄する」ことを意識したという。マスランカはいつも作曲を開始するにあたって瞑想を行い、楽想が勝手に導いてくれるのを待つのだが、本作を書き始めるに要した瞑想の期間は他の期間よりも非常に長く、三ヶ月がかかったという。やがて「自分が非常に大きな作品を書いている」ということを自覚するに至り、本作が完成するのだが、「詩人の詩からのインスピレーションが中核を成す」という結果は、まさにベートーヴェンに重なることとなった。

その詩、「秘密」は曲の演奏に先立って「序文」としてナレーションにより朗読される。これは、ニューヨーク生まれの詩人ウィリアム・スタンレー・マーウィン（1927-2019）によるもの。マーウィンは環境問題や仏教哲学にも精通した詩人で、「秘密」は2008年に発表され翌年にマーウィン二度目となるピュリッツァー賞を得た詩集「シリウスの影」に所収されている詩。マスランカはかねてよりマーウィン晩年の作品の、力強いシンプルさに惹かれていた。ごく短いフレーズ、たった一つの単語が織りなす文脈の共振に、自身の作曲の理想像が重なっていたという。ナレーションは冒頭で語った後、ずっと沈黙を続け

るが、終楽章の終盤で、マスランカ自身の作による詩「鯨の物語」の朗読で再び口を開く。それはマスランカなりのマーウィンに対する一つの返句なのだろう。

全曲は、マスランカがスコアに寄せた文章で記している、次の4つの概念に基づいて作られている。

時間 ： 記憶、時の経過
水 ： 浄化、生命力
自然 ： 大地、河川、海、鳥類
恩恵 ： 憐れみ、許し、休息

これらの概念を内包するマスランカ自身の音楽、それにバッハをはじめとした複数の楽曲の引用や再構築によって、演奏時間およそ80分の大曲が成立している。様々な思念が互いに呼び交わす、という意味での「交響」曲と言えるだろう。マスランカ自身、この曲や、個々の要素について「言葉によって説明することはできない」と語っている。ましてや、第三者がそれを解説することは難しいし、特定の聞き方を押し付けられるよりは、聞き手の一人ひとりが自ら内なる声を共振するのを感じ取ることが重要であろう。マスランカは「長大であるが、演奏に肉体的な疲労はない。忍耐強くテンポを刻み、演奏者全員が一瞬一瞬の響きに注意を払い続けることが要求される」とも語っており、演奏者にも内省的姿勢を求めている。ここから先の文章では、引用されている楽曲の情報や、音楽展開などの客観的事実をなるべく記していくが、他に筆者の個人的な所感・推測も入っている。これに捉われず、お聞きの方々一人ひとりが感じたことを大事にしていただきたい。

序文：秘密

前述の通り、マーウィンの詩が朗読される。「目に見えない時間（Time unseen time our continuing fiction）」と始められるその詩で語られるのは、「両親やその前の世代から受け継がれていた時代の記憶／乳母車を覆うレースのヴェール／白日の陽で照らされる川面の眩しさ／夏至の暑さ／両親の死」。決して描写的ではなく、連続的でもないが、聞き手それぞれの経験に基づいて共鳴する一つのイメージ。

時の流れ、水、自然、そして昇天。曲全体を貫く全ての世界観が、ここにある。

第1楽章：まもなくかなたの

「A」と「G」の2音があちこちで聞こえる静謐な幕開け。この2音はアメリカコガラ（Black-Capped Chickadee）の鳴き声を模倣したもので、1974年にマスランカが初めてこの鳴き声を意識して以来、心の奥底に響く声として他の多くの作品にも登場している。この2音はやがて4音による動機に成長、全曲（特に第2楽章）を貫く主要モチーフとなる。続いて力強く鳴り響く低音楽器による「地球の声」。そこから湧き上がるのが「ハ長調の和音」。これは前述の通り「マスランカ自身の和音」であると同時に、「最も自然な和音」。輝く自然への賛美。

一度静まり、ピアノが語り始めるのは、ロバート・ローリー（1826-1899）が1864年に作詞作曲したアメリカ生まれの賛美歌『まもなくかなたの』。日本では明治期に『流水天にあり』という訳名で紹介されたが、現在は雑多な替え歌によるコマーシャル・ソングや俗謡として知られていよう。原題は『Shall We Gather at the River（河に集え）』、チューンネーム（歌詞に依らない旋律の固有名）は『Beautiful River』。賛美歌としては「神の都での再会を期する」というもので、葬儀の場で歌われることも多い。水と死にまつわる歌。なお、『交響曲第9番』では全曲を通してピアノは随所で独奏的な役割を担うが、完全に自由に奏せる箇所はほぼ無く、何らかの楽器と合わせることを要求され「縛られ」ている。バンド全体に対し、どこか「孤独」を感じるのは筆者だけだろうか。

やがて4音モチーフを変形させた新たな旋律で展開した後、行き着くのは『われは汝に感謝しまつる、尊き主よ BWV346』。『交響曲第9番』にはヨハン・セバスチャン・バッハ『4声のコラール集』から4曲が引用されて用いられており、これもその一つ。コラール集では223番にあたる（出版譜によって番号が異なる場合があるが、本稿は1996年刊のベーレンライター社「新バッハ全集」による）。

第2楽章：全ては汝の元に

第1楽章で提示された4音モチーフを引き継ぎ、展開していく。「ハ長調の和音」で一つの頂点を作った後にハープとクラリネットで歌われるのは、バッハのコラール集で342番にあたる『今やすべてがあなたの足下にひれ伏しBWV11/6』。これはバッハ『昇天祭オラトリオ』の第6曲で、ヨハン・リスト（1607-1667）の「あなたは命の主、イエス・キリストよ」第4節にバッハが和声付けを行なったもの。

その後、再び4音モチーフの変形が回帰し、静かに止まる。

第3楽章：「我は神に感謝する」による幻想曲

第1楽章の終盤でも使われた『われは汝に感謝しまつる、尊き主よBWV346』を主題とした、自由な変容による楽章。5分ほどの比較的短いこの楽章は、ソプラノ・サクソフォーンとピアノだけで奏される。マスランカはサクソフォーン、特にソプラノの音を「最も人の声に近い、歌うことができる楽器」として多くの楽曲で特別扱いしている。

第4楽章：「おお、血と涙にまみれた御頭よ」による幻想曲

楽章の冒頭に、マーウィンの詩（ただし「秘密」ではない）から採られた一節「下界で人々が

急ぎ立てられているのを聞きながら、何年もの時が経ってしまった」が記されている。この楽章だけで約40分と全曲の半分近くを占めており、この楽章自体も4つの部分から成る。楽章名『おお、血と涙にまみれた御頭よ』は、バッハのコラール集で87番（同じ旋律で和声付けが異なるものが4つある）にあたる同名『BWV244/44』だが、この楽章の最終盤にしか登場しない。

楽章は、まずいわゆる「B-A-C-H」音形を思わせるモチーフによる速い強奏での導入を持つ。完全に「B-A-C-H」と一致しているのは一回しか無いが、十字架に由来するロザリオ音形である。

それが一段落すると、4音モチーフの変形による静かな部分へ移行し、第1楽章でも用いられた『まもなくかなたの』を用いた変奏となる。この変奏は曲調の大きな変化を複数回伴い、第4楽章の550小節目までとかなり長い時間を占めている。

続いて、ピアノとヴィブラフォーンによる美しく特徴的な（宮沢賢治『星めぐりの唄』を思わせるような）リズムで開始されるのが『共に日没を見よ』。これはマスランカ自身の過去作『トーン・スタディーズ』（2009）から引用されたもの。元々はアルト・サクソフォーンとピアノのための作品だったが、ここではピアノと打楽器だけ、続いて加わるクラリネット、フルートとソプラノ・サクソフォーンに託されている。

次にフルートとトランペット（カップ・ミュート装着）のユニゾンで奏されるのはバッハのコラール集で242番にあたる『魂よ、いかなればわれをかく悩ます BWV435』。天使を象徴する2つの楽器が魂を導く。

ここで、ナレーションがマスランカ自作の詩『鯨の物語』を朗読する。この詩は2009年にマスランカが仏教式の瞑想を行なった際に浮かんできたものだという。「キリストの十字架上の死と、偉大なクジラが私たちの命のために喜んで犠牲になることが、私の中で重なった」として書かれており、「極楽浄土である海に、キリストは神あるいは偉大なクジラとして復活する。輪廻転生の輪にいる彼らは人間が悟りをひらくために死を選ぶ」と語られる。冒頭のマーウィンの詩に呼応する内容で、水や死が描かれていることが分かるだろう。

朗読後、最後に演奏されるのが『おお、血と涙にまみれた御頭よ』（扱いとしては『鯨の物語』と不可分一体とされている）。バッハ『マタイ受難曲』において繰り返し使用した（旋律自体はバッハの作ではない）ことで知られる、受難のコラールだ。

実は、『トーン・スタディーズ』でも『共に日没を見よ』から『おお、血と涙にまみれた御頭よ』までの流れは同じで、『鯨の物語』も朗読される（楽曲の構成は一部異なる）。『トーン・スタディーズ』は人の声、内なる歌を探求した楽曲である（『おお、血と涙にまみれた御頭よ』ではサクソフォーンは内声を吹く）。『交響曲第9番』では、消えゆく響きのなかに、我々は何を聴き取るだろうか。

〈敬称略〉

“Secrets” by W.S. Merwin
W.S.マーウィン「秘密」

権利の関係上、詩の掲載は
会場配布版のみとさせていただきます

“Whale Story(O Sacred Head Now Wounded)” by D. Maslanka

Why should God have incarnated only in human form? (A brief story about whales)

In the sixty million years or so the great whales have had, both on land and in the oceans, there have been numerous, and in fact, innumerable great beings among them.

In fact, it turns out now that all the great whales are either highly developed bodhisattvas or Buddhas.

And in fact, it turns out that the Earth’s oceans are a Buddha Pure Land, and when you pass from this existence it is to be hoped for rebirth as a god or a great whale.

In fact, it turns out that the Pure Land oceans of the Earth are a training ground for Buddhas across all space and time.

We are loved by the great whales, and they, serenely riding the waves of birth and death, will die for us so that we may come to our enlightenment.

The end.

D.マスランカ「鯨の物語」

なぜ神は人間の姿でのみ顕現してきたのでしょう？（クジラについての短い物語）

約6000万年もの間、陸と海の両方に大いなるクジラたちが存在してきました。その間に数多く、いや無数の偉大な存在が彼らの中に現れました。

実は全ての偉大なクジラたちは高い境地に達した菩薩や仏陀なのです。

地球上の海は仏の浄土であり、あなたがこの生から旅立った後は神、または偉大なクジラとして再生することが望ましいのです。

また、地球上の浄土である海は全宇宙・全時代にわたって仏を育む修行の場であるともされています。

偉大なクジラたちは私たちを愛し、生と死の波に穏やかに乗りながら、私たちが悟りに至るためにその命を捧げるでしょう。

PROFILE | 楽団プロフィール

東京佼成ウインドオーケストラ

Tokyo Kosei Wind Orchestra

1960年5月「佼成吹奏楽団」として発足し、その後1973年に「東京佼成ウインドオーケストラ」へ改称。
2022年4月より「一般社団法人東京佼成ウインドオーケストラ」として活動する
日本が世界に誇るプロ吹奏楽団。
2024年4月から大井剛史が第6代常任指揮者、中橋愛生が楽芸員に就任。
桂冠指揮者にフレデリック・フェネル、特別客演指揮者にトーマス・ザンデルリンク、
首席客演指揮者に飯森範親を擁している。
吹奏楽オリジナル作品、クラシック編曲作品やポップス、ポピュラーまで幅広いレパートリーの演奏を通し
高い音楽芸術性を創出し、多くの人が楽しめる管楽合奏を展開、各地のコンサートで好評を博している。
また多くのレコーディング、メディアを通し、吹奏楽文化の向上・普及・発展に尽力している。

MEMBERS | 演奏者名簿

桂冠指揮者 …… フレデリック・フェネル
常任指揮者 …… 大井剛史
特別客演指揮者 …… トーマス・ザンデルリンク
首席客演指揮者 …… 飯森範親
楽芸員 …… 中橋愛生

指揮 …… 大井剛史
演奏 …… 東京佼成ウインドオーケストラ
ピアノ …… 鈴木慎崇
語り …… チャールズ・グラバー

Piccolo …… 丸田悠太
Flutes …… 前田綾子、臼井源太
Oboes …… 宮村和宏※、桜田昌子
Bassoons …… 福井弘康※、君塚広明
ContraBassoon …… 竹下未来菜
Clarinet in E♭ …… 松生知子
Clarinets in B♭ …… 大浦綾子、林裕子※、野田祐太郎、船橋栞里、浦畑尚吾、河西拓也、後藤榛花、近野千昌、福井萌
AltoClarinet …… 塚本啓理（BassClarinet）
BassClarinet …… 有馬理絵
ContraBassClarinet …… 原浩介
AltoSaxophones …… 林田祐和※（SopranoSaxophone）、田中拓也、都築惇
TenorSaxophone …… 松井宏幸
BaritoneSaxophone …… 栃尾克樹
Trumpets …… 奥山泰三、ガルシア安藤真美子、本間千也※、河原史弥、清川大介
Horns …… 上原宏、堀風翔※、小助川大河、小山千鶴、齋藤麻衣
TenorTrombones …… 伊藤雄太、山内正博
BassTrombone …… 藤井良太
Euphoniums …… 岩黒綾乃、大山智
Tubas …… 池田侑太、山岸明彦
Contrabass …… 前田芳彰
Timpani …… 坂本雄希
Percussion …… 和田光世、菊本歩、綱川淳美、野本洋介、二ツ木千由紀、堀尾愛、村居勲
Harp …… 高野麗音

※演奏委員

コンサートマスター
林田祐和

副コンサートマスター
宮村和宏

インスペクター
栃尾克樹
丸田悠太
今村岳志

企画委員
原浩介

役員
理事長 …… 勝川本久
常務理事 …… 八反田弘
専務理事 …… 堀風翔
監事 …… 清水宏一

事務局
事務局長 …… 勝川本久
事務局次長 …… 堀風翔
事務局長補佐 …… 八反田弘

制作
篠原華
大橋証太（ステージマネージャー）
羽田紀子（ライブラリアン）

営業
森ゆかり

広報
尾崎真也
荻沼美帆（チケットサービス）

賛助会・サポーターズクラブ
荻沼美帆
尾崎真也
佐原由起

総務
佐原由起
竹内正道
岩崎友香（パーソナルマネージャー）

経理
竹内正道
水本孝枝

Tokyo Kosei Wind Orchestra

賛助会員

会員募集中

今後も音楽文化の発展に貢献する
活動を行い豊かな社会を実現するため、
趣旨にご賛同いただける
多くの皆様からの
継続的なご支援が必要です。
賛助会へのご入会をぜひご検討ください。

年会費	賛助会員	維持会員	特別会員
個人	3,000円／1口	10,000円／1口	100,000円／1口
法人	100,000円／1口	300,000円／1口	1,000,000円／1口

詳細はこちら

※会員期間：会費納入翌月より1年間
お問い合わせ：東京佼成ウインドオーケストラ事務局 賛助会担当　FAX：03-5341-1255　MAIL：patronage@tkwo.jp

賛助会員の皆さま

五十音順、敬称略で掲載させていただいております。（2024年12月1日現在）

法人会員

特別会員　**（株）佼成出版社**　匿名1名

維持会員　**エーユーツーリスト（（株）アコード）**　**名古屋 宗次ホール**
（株）ビルドエスアンドアール

賛助会員
株式会社アシストジャパン
遠藤製作所 遠藤悦治
株式会社CAFUAレコード
株式会社サンテックビオズ
株式会社全音楽譜出版社
中央鉄鋼 有限会社
株式会社プリマ楽器
柳澤管楽器株式会社
アトリエ・エム株式会社
海鮮食堂余市の仲間達
管楽器専門店ダク
鈴木住地（有）
立花産業（株）
フォスターミュージック株式会社
みずほ証券株式会社

個人会員

特別会員
アイちゃん
林 正作
山内 幸人
天野 正道
久末とまこ
加賀美 猛
古沢 秀明
田中 淳子
ミーゴ

匿名6名

維持会員：173名　／　賛助会員：93名

SUPPORTERS CLUB

東京佼成ウインドオーケストラ サポーターズクラブ

会員募集中

東京佼成ウインドオーケストラ（TKWO）を応援したい仲間が集まるファンクラブです。
TKWOをもっと身近で特別な存在に♪
サポーターズクラブへ入会して、一緒にTKWOを盛り上げていきましょう！

詳細はこちら

PR Supporters　PRサポーターの皆さま

敬称略で掲載させていただいております。（2024年12月1日現在）

TKWOのチラシやポスターの設置にご協力いただいている皆さまをご紹介します。

▼店舗等一覧

アルル音楽教室
（株）コマキ楽器 ジャパンパーカッションセンター
ブレーン（株） 広島本社
ブレーン（株） 東京支社
（株）管楽器専門店ダク
ミュージックスクール「ダ・カーポ」
（株）セントラル楽器
日本大学芸術学部音楽学科 江古田校舎
管楽器雑貨専門店pitch
ザ クラリネット ショップ
（株）ドルチェ楽器 管楽器アヴェニュー東京
（株）永江楽器水戸
野中貿易（株）
ヤマハミュージック 横浜みなとみらい
株式会社 池袋音楽学院
株式会社CAFUAレコード
大江戸シンフォニックウィンドオーケストラ
ドレミファクトリー
フルート専門店 テオバルト
アトリエ・エム株式会社
イシバシ楽器 横浜店
フォルテ・オクターヴ ハウス
管楽器専門店ウィンズスタイル
フォスターミュージック株式会社
金管楽器修理調整 浅香工房
葡萄房 by THE CAMEL
吹奏楽酒場「宝島。」
金寿司
フローリスト花六
中華 大枡
海鮮食堂余市
おぐセンター
ワイン酒場トンマーゾ
小林メディカルファミリー薬局
天ふじ
立花産業株式会社
方南町 共立薬局
御菓子司 大和や
栄進社クリーニング

▼個人のお客様

渡邉 直子
樫野 哲也

東京佼成ウインドオーケストラでは PRサポーターを募集しております。

東京佼成ウインドオーケストラの活動をサポートしていただけませんか？
ポスター・チラシの掲示、チラシを設置していただける店舗・公共施設を募集しております。（個人も含む）ご協力いただける皆さまのご芳名は定期演奏会プログラム・オフィシャルサイトに掲載させていただきます。

Tokyo Kosei Wind Orchestra 公演情報

特別演奏会 ～初代常任指揮者汐澤安彦を迎えて～

2025年2月17日［月］ 開演19:00（開場18:15）

東京オペラシティ コンサートホール：タケミツメモリアル

指揮 汐澤安彦

◉アルヴァマー序曲／J.バーンズ
◉交響詩「ローマの松」／O.レスピーギ／G.M.デュカー 編　ほか

S席：¥6,000　A席：¥5,000　B席：¥4,000　U25：¥3,000

課題曲コンサート2025

2025年3月27日［木］ 開演19:00（開場18:15）

サントリーホール 大ホール

指揮 大井剛史（常任指揮者）　◉2025年度全日本吹奏楽コンクール課題曲（全4曲）　ほか

SS席：8,000円（限定24席・ゲネプロ見学付き）　S席：6,000円　A席：5,000円　B席：4,000円　P席：3,000円
S席学生（高校生以下）：3,000円　A席学生（高校生以下）：2,500円　B席学生（高校生以下）：2,000円

※全席指定・税込　※未就学児のご入場はご遠慮ください。※出演者、曲目、時間等は変更になる場合がございます。
※会員先行は定期会員・サポーターズクラブ会員対象。

新楽団員挨拶

Tuba 池田 侑太 Yuta Ikeda

本日は第167回定期演奏会にご来場いただき誠にありがとうございます。2024年11月より入団となりましたテューバの池田侑太と申します。私がTKWOと初めて演奏させていただいたのはなんと2013年の4月。当時まだ高校3年生の時に参加した当団の吹奏楽大作戦でした。吹奏楽少年だった僕が1番憧れていた楽団の皆様と演奏できた体験は今でもとてもよく覚えています。当時のワークショップの指揮は大井さん、入団後初の定期の指揮も大井さん。運命を感じずにはいられません。自分がTKWOから大きな感動をもらったように、今度は自分が演奏を通して多くの人に夢や感動を与えられるような存在になりたいと思っています。これからどうぞよろしくお願い致します。

Tokyo Kosei Wind Orchestra

2025–26 Season Concert Schedule

定期演奏会スケジュール

第168回 定期演奏会

2025年4月13日［日］ 開演14:00（開場13:15）

東京オペラシティ コンサートホール タケミツメモリアル

指揮 飯森範親（首席客演指揮者）

S席：¥6,500　A席：¥5,000　B席：¥4,000　C席：¥3,000　U25：¥2,500
■会員先行 2025年1月7日（火）／一般発売 2025年1月14日（火）

第169回 定期演奏会

2025年6月25日［水］ 開演19:00（開場18:15）

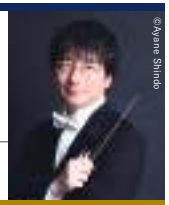
東京オペラシティ コンサートホール タケミツメモリアル

指揮 トーマス・ザンデルリンク（特別客演指揮者）

S席：¥7,500　A席：¥6,000　B席：¥4,500　C席：¥3,500　U25：¥2,500　■発売日：調整中

第170回 定期演奏会

マスランカ・チクルス Vol.3



2025年9月28日［日］ 開演14:00（開場13:00）

東京芸術劇場 コンサートホール

指揮 大井剛史（常任指揮者）

S席：¥6,500　A席：¥5,000　B席：¥4,000　C席：¥3,000　U25：¥2,500　■発売日：調整中

第171回 定期演奏会

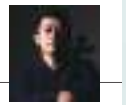
2025年11月23日［日］ 開演14:00（開場13:00）

東京芸術劇場 コンサートホール

指揮 ダグラス・ボストック

S席：¥7,500　A席：¥6,000　B席：¥4,500　C席：¥3,500　U25：¥2,500　■発売日：調整中

第172回 定期演奏会



2026年1月11日［日］ 開演14:00（開場13:00）

東京芸術劇場 コンサートホール

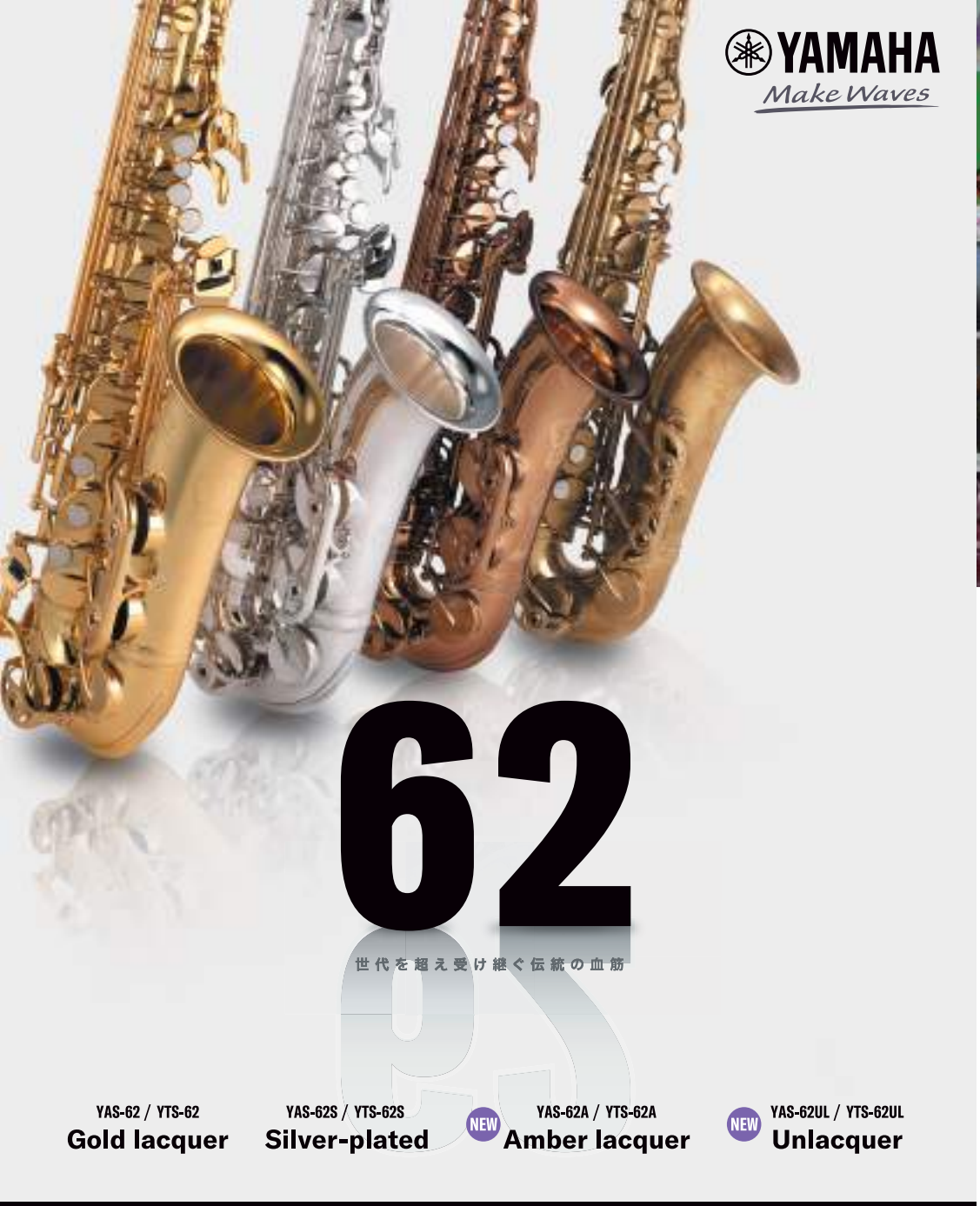
指揮 大井剛史（常任指揮者）　独奏 宮田 大（チェロ）

S席：¥6,500　A席：¥5,000　B席：¥4,000　C席：¥3,000　U25：¥2,500　■発売日：調整中

定期会員券 好評発売中

2025-26シーズン定期演奏会全5回を同じお席でお得にお聴きいただけます！

席種		S席	A席	B席	C席	U25
東京オペラシティシリーズ（全2公演）	第168回～第169回	¥9,000	¥7,500	¥6,000	¥5,000	¥4,000
東京芸術劇場シリーズ（全3公演）	第170回～第172回	¥14,000	¥11,500	¥9,000	¥7,500	¥6,000



お問い合わせ
お客様コミュニケーションセンター　管弦打楽器 ご相談窓口
フリーダイヤル　TEL.0120-132-808
携帯電話、IP電話からは 050-3852-4087へおかけください。
受付時間：月曜日～金曜日
10:00～17:00（祝日、センター指定休日を除く）

製品情報はこちら▶

株式会社ヤマハミュージックジャパン

KOSEIレーベルを音楽配信サービスで

iTunes、Apple Music、Spotify、Amazon Music、LINE MUSICをはじめとする各音楽配信サービスにて1000曲を超える楽曲を好評配信中！
1979年の初リリース以降、ポジティブに、かつ体系的に送り出されたコンテンツは、質・量ともに他の追従を許さない。世界に類例を見ない吹奏楽曲の数々を配信で！

主な配信サービス

iTunes　Spotify　Amazon Music　LINE MUSIC

株式会社 校成出版社
〒166-8535 東京都杉並区和田2丁目7−1 普門メディアセンター
03-5385-2311（代表）

電子書籍ECサイト ちえうみ